３．かわまちづくりの方針

①　地域における課題、必要性

幌延町は、利尻・礼文・サロベツ国立公園の一角にあり多種多様な動植物が生息する「サロベツ原野」と、栽培の難しさから幻の花と言われているブルーポピー等の北方系花卉の栽培やトナカイを飼育している「トナカイ観光牧場」を中心に観光客誘客を図りつつ、近年では「秘境駅」をはじめとする鉄道系資産を活用した新たな観光資源の開発に取り組んでいますが、観光入込客数の大幅な増加には繋がっていません。

また、幌富バイパスの開通（H22）及び天塩大橋の架け替え（R2）、国道 40 号天塩防災（R5、天塩町～幌延町の通行切り替え）により、宗谷管内を訪れる観光客等の移動経路が変化し、幌延町へのアクセス性が向上しています。さらに、国道 40 号 音威子府バイパス（R8.3、中川町～音威子府村）により、宗谷管内、天塩川流域を訪れる観光客等の増加が期待されるものの、観光拠点やそれらを繋ぐ観光動線の整備が不十分であり、幌延旧川の持つ観光ポテンシャルを十分に生かし切れていません。









幌延町周辺の観光導線の整備状況

幌延町の中心市街地近くに位置している幌延旧川には、良好な自然環境が残されており、エゾウグイ、エゾトミヨ等の魚類が生息しているほか、渡り鳥の飛来地となっているため、カヌーでこれらの自然景観を楽しむことや北緯 45 度線の通過、人工物が視界内に入らない空間での漕艇により非日常的な雰囲気を体験することができます。

しかし、幌延旧川でカヌーの利用ができることが広く一般に知られておらず、町民や観光客による利活用が十分にされていません。また、散策路等の日常的な利用がしづらい状況にあります。

こうした状況を踏まえ、かわまちづくりの整備により、幌延旧川がもつ立地特性と自然環境を活かし、カヌーを中心とした水辺空間の利活用を活性化するとともに、幌延町の活性化や賑わいの創出を図ります。



各拠点の持つ機能と交流連携イメージ

幌延町

第6次幌延町総合計画（令和3年3月）

- 幌延町でしか体験できない着地型の観光
- 近隣市町村と連携した広域観光ルートづくり
- 地域の教育資源を活用した多様な体験活動の推進
- 自然を活用したアウトドアスポーツや北国の冬に楽しめるスポーツ活動の機会の充実と普及
- 関係機関と連携した親水空間の維持管理

連携　支援　連携

国

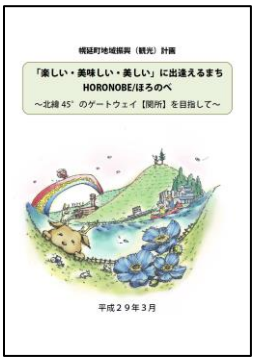
かわまちづくり支援制度を活用したソフト・ハード面の支援・助言により、幌延町のまちづくりと連携して、水辺整備・水辺空間の利活用の活性化を行い、幌延町の賑わい創出を図る

かわまちづくり支援制度における支援・連携体制

② 市町村の地域計画や沿川地域のまちづくりの中での河川の位置づけ

幌延町では、まちづくり関連計画に、独自の“新しい観光”や“滞在メニュー”を開発し、“幌延町でしか体験できない着地型の観光”や“近隣市町村と連携した広域観光ルートづくり”により、町の活性化や賑わいの創出を図ることを目指しています。

幌延町かわまちづくり計画は、まちづくりの最上位計画である「第 6 次 幌延町総合計画」（計画期間：令和 2 年～令和 11 年）における観光振興や水辺利活用等の方針との整合を図ります。







幌延町地域振興（観光）計画



統合

第6次 幌延町総合計画

『基本目標２　活力と賑わいを創る』
【観光・交流人口の拡大】
- 本町でしか体験できない着地型観光の振興を図る
- 近隣市町村と連携した広域観光ルートづくりや情報発信などの共同事業により広域観光を推進
- 既存第三セクターによる役割、業務充実について検討しつつ、民間活力をより効果的に活用した推進体制の構築を図る

『基本目標４　生きる力と文化を育む』
【学校教育の充実】
- 自分たちの住む地域の豊かな自然環境や歴史、伝統、文化、産業への理解を深め、郷土への誇りと愛着を育むとともに、子どもたちの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度の育成を図るため、地域の教育資源を活用した多様な体験活動を推進

【スポーツの振興】
- 本町の恵まれた自然を活用したアウトドアスポーツや北国の冬に楽しめるスポーツ活動の機会の充実と普及に努める

『基本目標５　豊かな自然と安全を守る』
【住宅・公園・緑地・水辺の整備】
- 幌延市街地に近接する三日月湖や宮園川などは、水質の改善と周辺環境の整備により町民の憩いの場として親しまれていることから、関係機関と連携して親水空間の維持管理に努めるとともに、河川の整備と適正な維持管理により災害防止を図る

出典：幌延町地域振興（観光）計画（平成29年3月）
　　幌延町地域振興（観光）アクションプラン（平成30年3月）

出典：第6次幌延町総合計画（令和3年3月）

幌延町のまちづくり関連計画における観光振興や河川に関わる主な記述

第6次 幌延町総合計画

『基本目標２　活力と賑わいを創る』
【観光・交流人口の拡大】
- 本町でしか体験できない着地型観光の振興を図る

『基本目標４　生きる力と文化を育む』
【スポーツの振興】
- 本町の恵まれた自然を活用したアウトドアスポーツや北国の冬に楽しめるスポーツ活動の機会の充実と普及に努める

『基本目標４　生きる力と文化を育む』
【学校教育の充実】
- 自分たちの住む地域の豊かな自然環境や歴史、伝統、文化、産業への理解を深め、郷土への誇りと愛着を育むとともに、子どもたちの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度の育成を図るため、地域の教育資源を活用した多様な体験活動を推進

『基本目標２　活力と賑わいを創る』
【観光・交流人口の拡大】
- 近隣市町村と連携した広域観光ルートづくりや情報発信などの共同事業により広域観光を推進
- 既存第三セクターによる役割、業務充実について検討しつつ、民間活力をより効果的に活用した推進体制の構築を図る

『基本目標５　豊かな自然と安全を守る』
【住宅・公園・緑地・水辺の整備】
- 幌延市街地に近接する三日月湖や宮園川などは、水質の改善と周辺環境の整備により町民の憩いの場として親しまれていることから、関係機関と連携して親水空間の維持管理に努めるとともに、河川の整備と適正な維持管理により災害防止を図る

整合

幌延町かわまちづくり計画

『親水広場（幌延旧川）の水辺整備』
- 利活用の利便性向上に係る水辺空間の整備
  - ・カヌーポート、管理用通路
  - ・駐車場、水場・トイレ、休憩スペース・カヌー保管庫
- 賑わい創出に向けたアクティビティ等の企画
  - ・カヌー体験等のイベント
  - ・イベント開催時のキッチンカー営業
  - ・冬季に楽しめるアウトドア利用
- 持続的な利活用に向けた環境教育の推進
  - ・自然観察等のイベント
  - ・幌延旧川の歴史や自然等を学ぶ看板整備

『幌延2号樋門（天塩川）の水辺整備』
- 利活用の利便性向上に係る水辺空間の整備
  - ・カヌーポート、管理用通路
  - ・天塩川本川から幌延旧川への入口の目印となる看板整備

『利活用の利便性向上、賑わい創出に係るソフト施策』
- 幌延旧川と周辺地域や町内の飲食店・観光施設をつなぐモデルコースの設定、案内マップの作成
- 整備予定の幌延町交流拠点と連携した、モデルコースや幌延旧川の自然に関する情報発信・広報活動

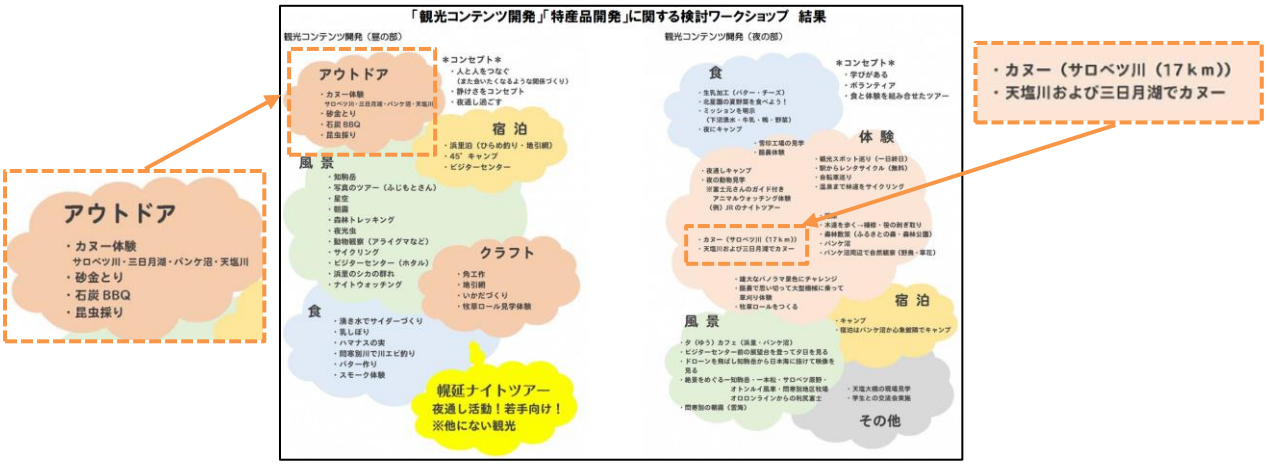
『持続的な利活用に係るソフト施策、維持管理』
- 利用者のルールやマナーをまとめたガイドラインの作成
- 日常的な施設管理、清掃、草刈り

幌延町のまちづくり計画（第６次 幌延町総合計画）と幌延町かわまちづくり計画との整合関係

③　地域活性化や賑わいのあるまちづくりに対する市町村や民間事業者の考え方

・「幌延町地域振興（観光）計画・アクションプラン」　ワークショップ（平成 29 年、平成 30 年）

幌延町では、『「幌延町地域振興（観光）計画」検討会』を設置し、検討ワークショップの開催や観光資源調査、アンケート調査、学生モニターツアー等を実施しています。その中で、天塩川や三日月湖（幌延旧川）でのカヌー体験等を新しい観光コンテンツとして検討しており、幌延町のまちづくりにおいて幌延旧川は重要な役割を担っています。



検討ワークショップの結果の概要

④　地域活性化や賑わいあるまちづくりに資する定量的目標

幌延旧川のカヌー利用者は、民間事業者によるカヤックツアーが開始された令和 4 年以降年々増加傾向にあります。かわまちづくりの整備により、カヌー・カヤックを中心とした水辺空間の利活用を活性化することで、幌延市街地を来訪する観光客や地元住民を水辺に誘導し、カヌー・カヤックの年間利用者数約 500 人[※1] を目標とします。

近年、幌延町への観光客は、コロナ禍以前と同程度に回復したものの、年間観光入込客数は約 10 万人にとどまっている。かわまちづくりの評価指標では、「第 6 次 幌延町総合計画」に位置付けている目標値と整合を図り、年間観光入込客数 13 万人[※2] を目標とします。

まちづくりに資する定量的目標

指標	従前値	目標値
幌延旧川 カヌー・カヤック 利用者数	181 人/年 （令和 7 年度）	500 人/年 （令和 18 年度）
幌延町 観光入込客数	10.3 万人/年 （令和 7 年度）	13 万人/年 （令和 18 年度）

※1：幌延旧川カヌー・カヤック利用者数

河川空間でのカヌー・カヤック利用者数に基づき評価

①：近 3 ヵ年(令和 5 年～令和 7 年)のカヌー体験・カヤックツアー1 回当たりの利用者数：約 4.8～5.7 人

⇒団体客の有無及び人数に大きく影響されるため、平均値は 5 人に設定

②：近 3 ヵ年(令和 5 年～令和 7 年)のカヌー体験・カヤックツアー開催回数の増加数：約 5～7 回/年増

⇒目標値は 6 回/年増に設定

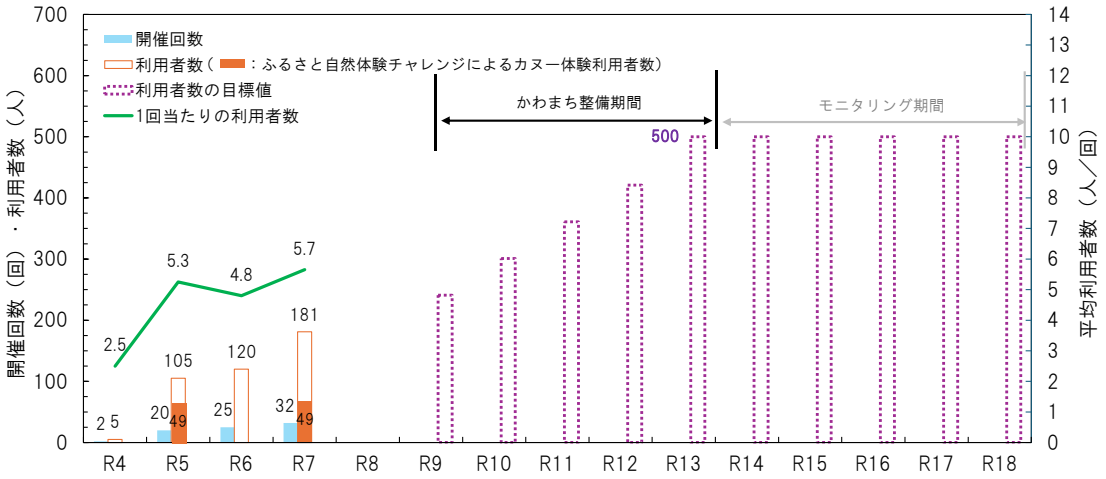
③：現在の 1 事業者から、2 事業者に増えることを想定

目標値：「過去の利用者数最大値+平均利用者数×かわまちづくり整備期間の増分目標値」

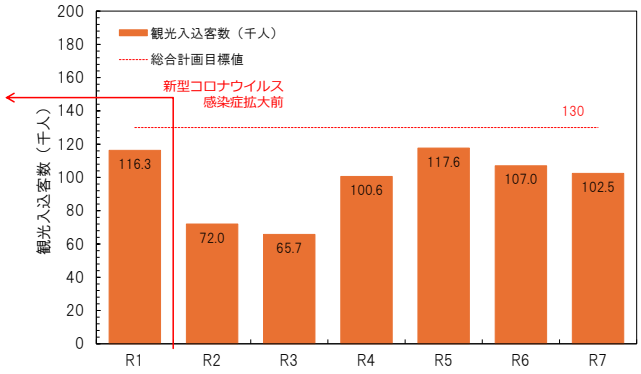
（181 人）　＋（①×（②×5 ヵ年））×③　＝　481 人　≒　約 500 人

※2：幌延町観光入込客数

幌延町観光入込客数調査結果、第 6 次幌延町総合計画の目標値に基づき評価



幌延旧川　カヌー・カヤックの年間利用者数の推移

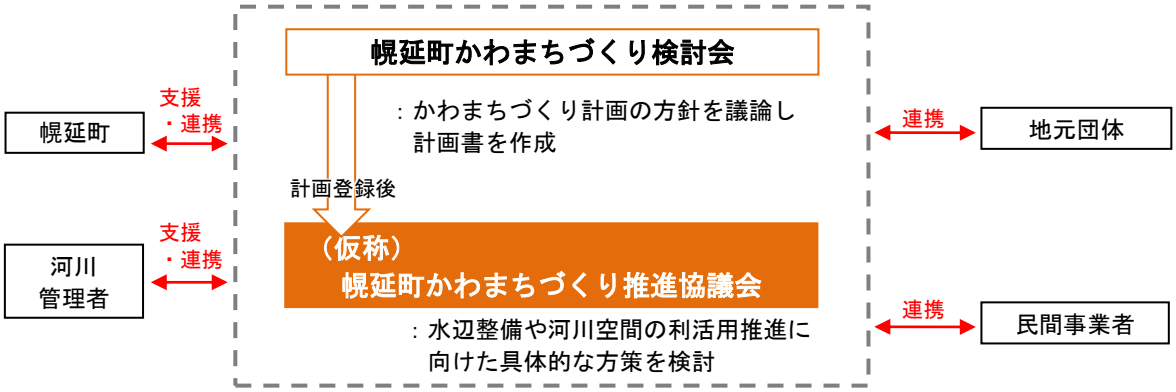


幌延町　年間観光入込客数の推移

４．推進体制・取組内容

①　検討会、運営組織等の体制

令和 6 年 12 月に幌延町及び地元関係者等からなる「幌延町かわまちづくり検討会」を立ち上げ、地域の意向を踏まえ、まちづくりと整合した利活用および観光振興策の検討、具体化を図っています。かわまちづくり計画登録後は、「幌延町かわまちづくり推進協議会（仮称）」を開催し、水辺整備や河川空間の利活用推進に向けた具体的な方策を検討する予定です。



幌延町かわまちづくり　推進体制